

富士登山計画案

富士山は見る山であって登る山ではない、という人がいて、そうだそうだという人が少なからずいる。考え方は色々だから、見るだけで登らないという人がいても反論するつもりはない。正直、見るだけで登らないなんてもったいないと思う。山は、山好きのぼくらに登られるためにそこに在る、というのがぼくの持論である。

自分勝手に世界三名山を考えてみた。冒頭お断りしたように、自分勝手に、だ。世界三名山、ぼくが自分勝手に挙げるのは、エベレスト、マッターホルン、富士山である。ナンバーワンはどの山だと聞かれたら、ぼくは迷わず富士山と答える。山容が素晴らしいことはもちろんだが、富士山の最大の魅力は誰にでも登れる山、であることだ。マッターホルンは、技術・体力がなければ登れない。エベレストは、技術・体力に加えて資金力もなければ登れない。山は、登られてこそ“山”なのだ。

毎夏、富士山に登っていた。が、昨年はお尻が上がりなかった。世界文化遺産登録で大混雑が予想されたからである。実際は、ぼくと同様に敬遠した方も多かつたらしく登山者数は横這いであつたらしい。今夏は富士山に登ると決めている。7月、8月、9月の各月1回登るつもりだ。

7月は、吉田口登山道を馬返しから登る。富士急行線富士山駅に集合し、浅間神社にお参りしてからタクシーで馬返しまで入り、歩き始める。一合目、二合目、三合目、四合目、五合目と登り、佐藤小屋で一泊する。富士山の混雑・渋滞の原因は、山頂でご来光を見ようということにあるのだから、山頂でのご来光は断念、佐藤小屋の出発は4時頃にする。六合目を過ぎた辺りでご来光を迎えるはずだ。明るいほうが行動もスムーズ、お鉢巡りに入って剣ヶ峰に立つ。標高1,440mの馬返しから3,776mの剣ヶ峰まで高度差2,336mを登るのだ。チャレンジし甲斐のある大登山である。この日の内に帰宅できないことはないが、下山した河口湖周辺の温泉旅館かどこかで、のんびり一泊するように計画したら、最高の夏山登山になること間違いなし。

8月は、富士宮口から登る計画を作る。静岡県以西の方たちが参加し易い計画としたい。9月は、船津口(スバルライン)五合目から吉田口登山道を登る計画。8月、9月は現地に夕方集合し、22時頃登山を開始して仮眠せずに山頂を目指す。弾丸登山ではなく、チョーゆっくり足を上げていく登り方。八合目付近でご来光を迎えるような行動を考えている。

山頂でご来光を迎えることに拘泥しなければ、混雑・渋滞からは免れるはずだ。この計画でも、下山してその日の内に帰宅できる人は帰宅してしまってもいいが、下山したところでのんびり一泊と決めておけば、下山時に精神的な余裕ができるので安心。

日本一、いや、世界一の山である。登り切ったときの充足感は、眺めていただけでは絶対に得られない、生の実感である。